

四季の風

■発行責任者／病院長 金岡 祐次
■編 集／大垣市民病院広報・企画委員会



広報 第51号

•発行 平成27年7月1日•

理 念

患者中心の医療・良質な医療の提供

私は平成24年4月より当院救命救急センターに勤務し、本年4月より救命センター医長を拝命致しました。救命救急センターは平成24年1月に開設し、今年で3年が経過しましたので過去3年間の実績と今後の展望についてご紹介いたします。

3年間の救急外来受診患者数は年間平均約46,000人（一日平均126人）、救急車搬送台数は年間平均



新救命救急センター開設3周年を迎えて

救命救急センター 坪井 重樹

約9,000台（一日平均24.6台）と患者受け入れ数は全国の救命救急センターの中でもトップクラスでした。また、3年間で34件のドクターヘリ、防災ヘリ搬送患者を受け入れてまいりました。

救急外来からの入院患者数は年間約5,000人（一日平均13.7人）でした。これは救急外来受診患者の約11%（9人に1人）にあたり、全入院患者の約25%（4人に1人）が救急外来を経由して入院した 것입니다。また、救急外来宛の他院からの紹介患者数は年間4,000人前後（一日平均約10人）で、当センターは地域の医療機関にとっても重要な役割を担つてまいりました。

現在の救急外来診療体制について、専従医師不足は未だ解消していません。ただ、全国的に不足する救急医を『自らの病院で育てる』ということがこの問題の一番の解決策であると考えていますので、初期研修医全体の救急教育体制を見直し、頻度の高い疾患や外傷の標準的な診療方法や注意を要する点について全研修医参加型の教育時間を設けるよういたしました。その結果、救急志望の初期研修医や見学の学生も増加傾

向にあり、今後の見通しは決して暗いわけではないと考えています。また、若手医師たちが救急医療に理解ある各科専門医として成長することも、救急医療の充実のために重要であると考えています。

看護部門ではトリアージナース（受診患者の緊急度判断を行う看護師）の育成に取り組んできました。看護師は院外で研修を受講したり、院内では救急医と看護師で定期的に検討会を行い、症例の蓄積や新たな知識を得るなど能力の向上に努めています。救命救急外来から続く入院管理の質の向上も救急医療の充実のために重要であります。センター2階の救急病棟は当初10床での稼動でしたが、徐々に増床し現在は20床まで拡大しております。看護師の増員、育成に努め、さらなる看護体制の充実を目指してまいります。

この3年間を一言で表すなり、施設の拡大に対応する『土台を作る期間』であったといえます。これから約10年間は救急分野の専門性の高い人材を『育てる期間』であると考えています。地域の救急隊や周辺医療機関との連携についてもさらなる改善と強化に努め、西濃医療圏の『最後の砦』としての覚悟をもつて努力してまいります。限られた医療資源を有効利用するためにも、救急医療に携わる皆様のご協力と地域の皆様のご理解を引き続きお願い申しあげます。



患者満足度調査

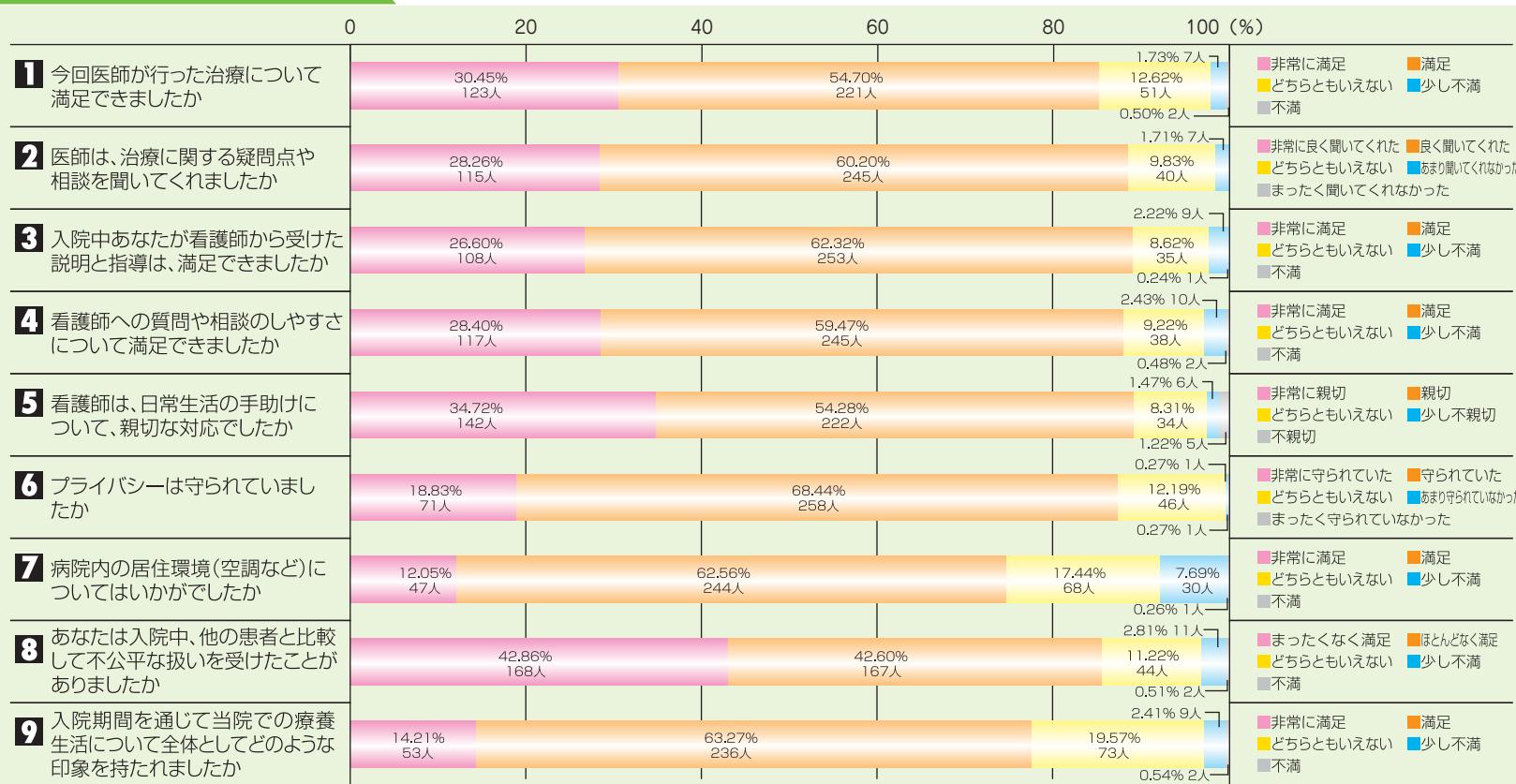
結果報告

当院では、「患者中心の医療・良質な医療の提供」を理念に掲げ、地域の皆様からより信頼される病院を目指し、アンケート調査を実施しましたのでご報告いたします。

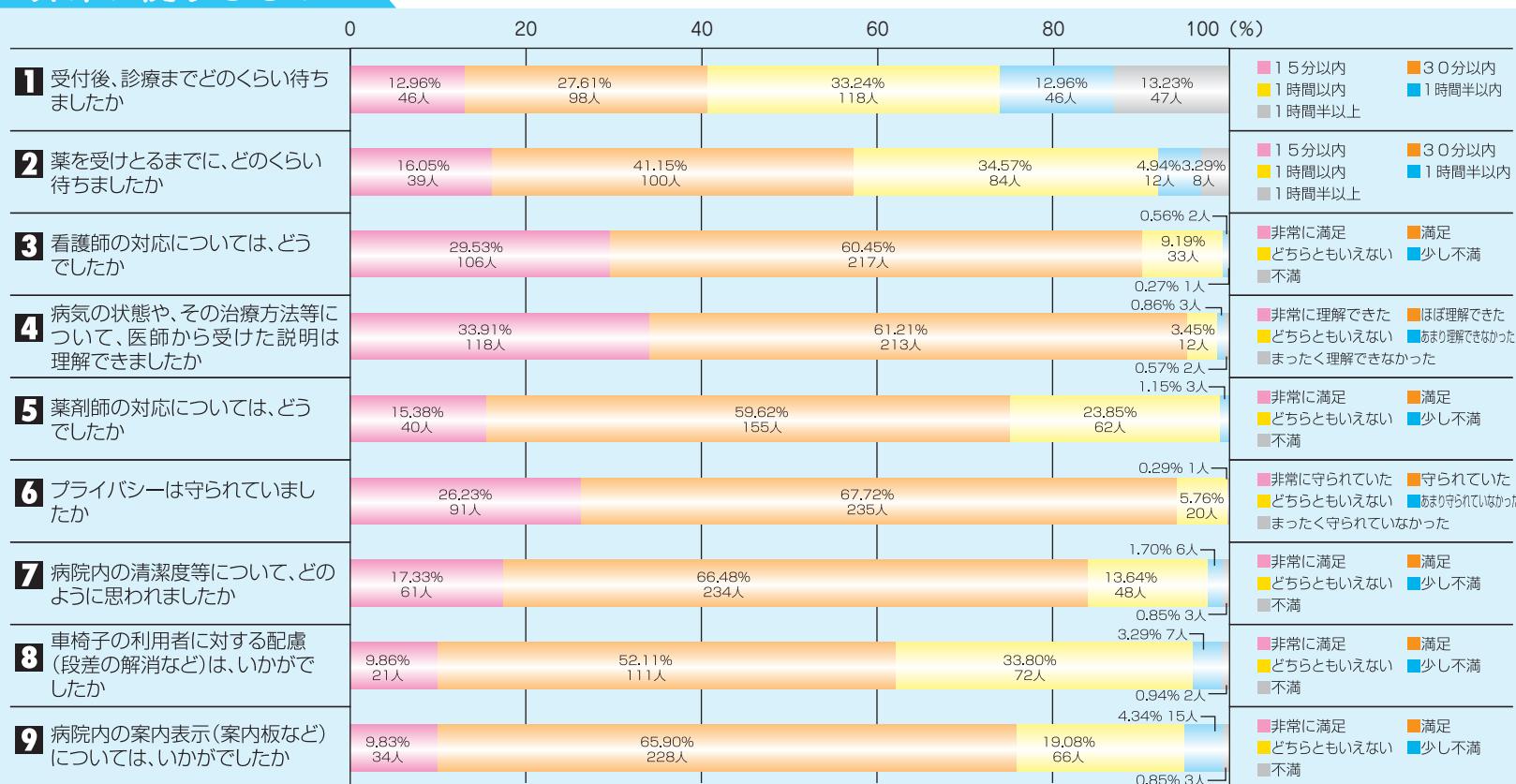
実施日は、平成27年1月22日(木)で、調査当日にご入院されている患者さん、新患者さん全員、及び再来患者さん一部を対象に実施いたしました。

アンケート結果については、入院、外来の各アンケート項目(それぞれ30項目程度)のうち、主要な内容9項目について、次のとおりご報告させていただきます。

入院に関するもの



外来に関するもの



また、上記のアンケート結果のほか、当院に対するご意見、ご要望として、施設的な改善要望から待ち時間や接遇面等、様々なご指摘をいただきました。

今回のアンケート結果につきましては、今後の病院運営の参考とさせていただき、より患者さんに対するサービス等の充実に努めてまいりたいと考えております。なお、ご協力いただきました患者さんには心よりお礼申し上げます。
ありがとうございました。



ふれあい看護体験

ふれあい看護担当 谷 幸代



看護部の理念

安心と満足につながる 温かな看護の提供

当院の看護部では毎年ナインゲール生誕の日である「看護の日」に合わせ、「患者さんとのふれあいを通して、医療や看護のあり方を考えるきっかけを作る」目的で西濃地区を中心とした高校生を対象に岐阜県看護協会主催による「ふれあい看護体験」を行っています。今年は、5月16日（土曜日）の13時から、「看護の心をみんなの心に」をメインテーマに、昨年度の71名を上回る82名の参加がありました。多くの高校生に参加して頂けた事は、「看護の仕事」に関する心を持つて頂けていると嬉しく思います。

「禹々くりしゃべつて」と患者さんが話された時に、患者さんの立場になって考えることが大切である」と、看護技術や知識だけでなく「ミューーションの取り方が大切であることを学びましたと感想がありました。また将来看護師になつて産婦人科病棟に勤務したいと思っていた高校生は、「希望通りの産婦人科病棟で体験が出来て、夢に一歩近づけて良かった」と述べられ喜びの表情がうかがえました。

院の理念、看護部の理念や方針、看護体制や現状についてのお話の後、指導者と共に入院されている患者さんの手足を洗ったり、血压や脈拍を測ったり、沐浴の見学をしたりなど体験を行つて頂きました。指導者に血压測定の体験を勧められた参加者は、表情が硬く緊張しているのが伝わってきました。しかし患者さんから「ありがとな」と声を掛けられると、緊張がほぐれて笑顔が見られました。

今回のふれあい看護体験で、参加者の看護に対する熱い思いを聞くことができ、多くの看護師が誕生して頂けるように、今後も開催します。

No.8



慢性期では内服薬が中心で、再発予防の目的で使用されています。

血小板の働きを抑えて血液を固ま
りにくくし、脳の血管が詰まるのを
防ぐ抗血小板薬には、**バイアスピリ**

う薬がありほか。

血液の凝固系を阻害し血液を固ま
りにくくする抗凝固薬には、イグザ
レルト、エリキユース、プラザキサ
リクシアナ、ワーファリンという薬
があります。これらは、特に心原性
脳塞栓症に有効です。また、ワー
ファリンにおいては、納豆、クロレ
ラ、青汁等のビタミンKを含む食品

の摂取によりワーファリンの作用を弱めてしまつるので控える必要があります。

副作用としては、抗血小板薬、抗凝固薬のいずれにおいても出血傾向がみられることがあるので注意が必要です。

細くなつていくことで詰まる「脳血栓性」のものと、心臓や他の場所で血栓が形成され、その血栓が血液の流れに乗つて脳の血管まで流れ込み詰まる「脳塞栓」に分けることができます。どちらも脳の働きに支障をきたすことになり、その症状としてしびれや麻痺、言語障害等が出現するのですが、脳梗塞の治療として、当院で使用されている薬剤をいくつか紹介いたします。

脳梗塞の治療には、その人にあつた治療薬が必要です。他人からもらった薬を自己判断で使用するのは絶対に避けましょう。また、薬を服用していく何か気になることがあれば医師や薬剤師に相談するようにしましょう。

急性期では注射薬を使った治療が多く、抗血栓薬（ヘパリン、オザグレル、ノバスター）、頭蓋内圧を下げる薬（グリセオール）、脳のダメージを少なくする薬（ラジカット）等が用いられます。





3.0テスラMRI装置の導入

平成27年4月に初の3.0テスラMRI装置(Discovery MR750w Expert)が導入されました。国内では1.5テスラのMRIが主流を占める中、3.0テスラのMRIは実稼働数も少ないのが現状です。磁場の強度が2倍になることにより人体から得られるデータも増加し、より細かな部分を評価することができます。多彩な画像抽出条件を搭載することにより、造影剤を使用しないMRアンギオグラフィ(血管造影)や関節を対象とした検査に優れた画像情報を提供することができます。また、小児などに対してはサイレントスキャンというMRI独特の騒音を消すこともでき、安心して検査を受けることが可能となります。より高分解能を有したMRIが導入されたことで良質な医療の提供に貢献するものです。

お知らせ

第9回がんの市民公開講座

演

題: 1. 「がん治療にともなうからだの変化」

外科医長 高山 祐一

2. 「がんの予防と治療にともなう食事の工夫」

栄養管理科管理栄養士 岩崎 文江

3. 「どうしても食べられない場合の栄養のとり方」

がん看護専門看護師 林 ひとみ

日

時: 平成27年7月25日(土)

午後1時20分~午後3時

場

所: 大垣市民病院 管理棟5階 講堂

問い合わせ先

事務局庶務課 内線 6135



※2つの講座については、事前の予約は必要がなく、どなたでも無料で参加いただけますので、多数のご参加をお待ちしております。

大垣市民病院
臨床研修の
理念

- ◎社会人としての規律を守り、医師として思いやりのある人格を涵養する。
- ◎プライマリ・ケアに必要な幅広い診療能力を修得する。
- ◎チーム医療の一員として、安全・安心・満足の得られる患者中心の良質な全人的医療を実践する。

当院は、臨床研修病院に指定されており、次世代の医師育成のため、上級医の指導のもと研修医の臨床研修及び学生の臨床実習を行っています。

助産師 看護師 (正職員・パート)



随時募集

保育所完備

○応募資格 / 採用時満55歳までの方(准看護師は45歳までの方)

正職員: 助産師、看護師免許取得者

パート: 助産師、看護師または准看護師免許取得者

※正職員は夜勤も数回できる方

○勤務体制 / 外来または病棟勤務

○選考方法 / 書類選考および面接 *面接日などは後日連絡

○申し込み / 助産師、看護師または准看護師免許証の写しと履歴書(写真添付)を大垣市民病院事務局庶務課へ郵送またはご持参ください。

○問い合わせ先 / 〒503-8502 大垣市南郷町4丁目86番地
大垣市民病院 事務局庶務課

☎0584-81-3341 内線6132・6133



工事のお知らせ

託児所及び寮の改築にともなう工事のため、大変ご迷惑をおかけいたします。ご理解とご協力のほど、よろしくお願ひいたします。



当院は敷地内全面禁煙です。
ご理解、ご協力ください。

編
後
集
記

「四季の風」51号をお届けしました。次回は10月1日に発行予定です。
「四季の風」では、今後とも多くの皆さまの声をお聞きしながら、読みやすい紙面づくりを目指してまいります。
ご意見ご要望がございましたらお気軽に寄せください。

大垣市民病院広報・企画委員会

〒503-8502 大垣市南郷町4丁目86番地

TEL(0584)81-3341 FAX(0584)75-5715

<http://www.ogaki-mh.jp/>

(電話でのお問い合わせについては、お間違いのないようお願いします)